

2012年12月18日

熊本県知事 蒲島郁夫 様  
熊本市長 幸山政史 様  
国土交通大臣 羽田雄一郎様

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島 康  
連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13  
電話 090-2505-3880 FAX 096-354-2966

# 抗議文

12月6日、羽田雄一郎国土交通大臣は、立野ダム事業計画について「ダム案が最も有利」とした九州地方整備局の検証結果を妥当として、事業の継続を決定しました。

ところが、9月22日より白川流域の熊本市、大津町、南阿蘇村で開かれた公聴会では、3日間で30名の流域住民が意見陳述をし、全員が立野ダムに反対や疑問の意見を述べ、「立野ダム案がよい」と発言した住民は一人もいませんでした。

また、9月25日の学識経験を有する者等からの意見聴取においても、国交省が指名した委員であるにもかかわらず、問題点を指摘する意見が多く見受けられ、反対意見を述べられるのかとさえ思われるほどでした。これら住民や学識者の意見を聞かず、吟味もせず、国交省の情報のみで立野ダム建設を容認した熊本市長、熊本県知事は、あまりにも無責任と言わざるを得ません。洪水時にダム下部に設置される5m角の3つの穴が流木などでふさがり、立野ダムが洪水調節機能を失った場合等、立野ダムが災害を引き起こした場合の責任をどう取るのでしょうか。ダム本体工事に最低でも10年間を要することでも明らかのように、立野ダム建設予定地は極めて脆弱な地質であることは多く指摘されているところです。

熊本市長は、なるべく早急に立野ダムをつくってほしい旨述べられています。市長は立野ダムを造るべき価値のあるものなのか、具体的に市民に説明もしていません。市長は市民に対し、説明責任を果たすべきです。

熊本県知事は、まず立野ダム建設を認めたいうえで、環境に配慮し県民に十分な説明を述べられています。本来現状変更行為が認められない国立公園の特別保護地区に高さ90mものダムを建設すること自体が環境に大きな影響を与えるものです。事業検証の最終日である10月29日、国土交通省は立野ダム建設予定地周辺で国や県が保護すべきと定めている重要種174種の動植物が生息し、ダム工事の影響で42種もの生息地域や個体自体が消失するか、その恐れがあると公表しました。国土交通省はこれまで「立野ダムは普段は水を貯めず、水没するのは洪水調節をする短い時間であるので、環境に与える影響は小さいと想定される」と主張してきました。これまでの主張を大きく覆す調査結果を、検証作業の最終日に公表したことに、怒りを感じます。県知事は具体的に環境面でどのような点に配慮を希望されるのか、県民に説明責任を果たすべきです。

1 1月22日に国土交通省本省で行われた有識者会議においても、一般市民を排除した状況で行われ、同席した記者の取材さえ拒否する強権的な運営が行われたようです。有識者会議はダム事業の追認機関と化しているのではないかと12月5日の熊日新聞で報道されたほどです。その有識者会議でも「立野ダムでは、上流での環境等を考慮して、流水型ダムにしていると思われるが、長い間に土砂が上流に堆砂する可能性について、その影響をどのように考えているのか。環境を心配する意見も出されており、丁寧に説明していくことが必要ではないか」などの基本的な疑問が提起されていたのに、対応方針には何も反映されませんでした。

このような事業検証について、12月7日、羽田雄一郎国土交通大臣は、「丁寧に検討してきた結果を受け、私が最終的に決めた」と述べたと報道されましたが、客観的な検証がなされたとは全く言えません。民主党政権の打ち出した脱ダム方針を具現化するはずだった「ダム事業検証」を、河川官僚に丸投げする愚を犯した民主党政権の責任は極めて重いとと言えます。事業者が自らの事業を自らの手で検証することには無理がありました。国土交通省が選んだ学識者や有識者が、国土交通省の検証結果に異議を唱えることはあり得ません。これでは客観的な「検証」とは、とても言えません。

またそれを盲目的に追認した熊本県知事および熊本市長の姿勢は、完全に住民の民意との間にねじれ現象を引き起こしています。

7月12日の豪雨災害で亡くなられた方々は、全て土砂災害によるものです。白川があふれた箇所は、全て改修が完成していない箇所ばかりです。これらは立野ダムを造っても解決できない、深刻な問題です。

立野ダム継続を決定した羽田雄一郎国土交通大臣大臣と、国土交通省の姿勢を追認するだけだった幸山政史熊本市長、蒲島郁夫熊本県知事に強く抗議をするとともに、客観的な検証を行うために、2012年5月2日に日本弁護士連合会が国土交通省に提出した「ダム事業の検証の抜本的見直しを求める意見書」に述べてあるように、独立・中立の機関によるダム事業の審査を行うことを強く求めます。

以上